

令和7年度 稲沢市地域自立支援協議会 第2回本会議 議事要旨

【日 時】令和8年3月17日（火）午後2時～午後3時25分

【場 所】稲沢市役所 東庁舎1階 会議室8

【出席者】本会議委員 8人 事務局 9人

【欠席者】本会議委員 1人

あいさつ（会長）

【議 事】

1. 議題

（1）運営会議等の実施状況について（事務局から説明）

委員 A 参考資料に記載のNo.4のグループホームはすでに開所しているのか。

事務局 現時点で、まだ開所していない。

委員 A それはなぜか。

事務局 サービス管理責任者が見つからず、一度この計画を止めると連絡を受けている。

委員 A 新規事業所2カ所は同じ法人か。

事務局 別の事業者だが、まだ正式に住所等まで確認は取れていない。

委員 A 自立支援協議会を動かしていくためのガソリンの供給システムが、少し悪いのではないか。地域課題がわからないまま進んでしまう感じがある。個別支援会議が開催されず、地域課題が出てこない問題がある。個別支援会議とは別の方法で、地域課題を皆さんで掘り起こし、会議のための会議とならないよう、やるべきことがわかったうえで、会議を行う体制を再度考えるべきだと思う。

委員 B 相談支援からの地域課題が6件あった。強度行動障害の専門的支援のほか、保育と療育のところで、この事例だけにとどまらず、地域課題として、今後具体的な方向性が示されていくといい。

あげられた事例から、児童発達支援センターの地域支援の機能を、地域の資源としてどのように活用していくべきかが大事な視点だと再確認した。

（2）分野別部会の実施状況について（事務局から説明）

・地域生活支援部会（部会長から報告）

委員 A 3月12日の地域生活支援拠点ネットワーク会議で出た課題をこれからどうするか。

委員 C 体験の場が足りないことや、移動手段に困難さを感じていることがあげられた。今回、対応しているかたは、母が倒れて本人を誰が受け止めるのか、拠点のフローチャートに沿って3日以内に関係者が集まって個別支援会議を行い、受け入れよう動いている。困っている部分として移動手段や金銭管理、それから親な

きあとについてなどがあげられる。相談員が一人で抱えすぎているので、いろいろな事業所がもっと支えられるよう考えていくつもりだ。

委員 A 自分のかわりに別の職員が会議に参加したが、一宮市よりもずっと進んで話し合
いができていると言っていた。グループワークから出た気づきをそのままにして
はいけない。できることを整理し、すこしずつ機能を強化していくことが必要に
なると思うので、ぜひお願いしたい。

委員 C 医療とのつながりも難しいという話があり、課題だと思うので、部会であげたい。

委員 A 災害時の話題は、福祉避難所への直接避難を医ケア児者からやるべきだと思う。
まずは、医ケア児者の直接避難の仕組みを作る。直接避難できるよう名簿を作り、
行政も把握し、個人情報に関しては、本人の同意をとり、まずはそこ（福祉避難
所）へ行くところを定められるとよい。

会 長 来週の市の防災会議でも少し話が出ると思う。内容については、また報告する。

・就労支援部会（部会長から報告）

委員 B 障害者雇用フォーラムについて、アンケートは取っているか。

事務局 事務局でアンケート結果を把握している。

委員 B 成功事例だけではなく、うまくいかなかった事例から改善点が見えてくるので、
皆で学び合えると今後のフォーラムに反映されると思う。

委員 A 障害者雇用フォーラムは来年度もやるのか。

事務局 その予定である。

委員 A さらに一歩進んだフォーラムとなることを期待している。就労選択支援事業につ
いて、チラシには「まずは計画相談支援事業所へご相談ください。」と書いてあ
るが、特定相談の人たちが就労選択支援の意味を理解できているか心配だ。担当
している A・B 型事業所を利用する人たちから働きたいというニーズがあったと
きに、就労選択支援を使って就労に行く可能性もあるので、適切に案内できるか。
相談支援、ハローワーク、学校も含めて、地域の取組みとして就労選択支援をと
おして一般就労につく流れをつくることがそもそもの意味合いだと思う。就労選
択支援事業所だけの話ではない。仕組みが生きる稲沢市にしていきたい。

委員 B 就労選択支援について、障害のあるかたが理解できる情報をどう提供するのか、
コミュニケーションの支援が足りているかなど、具体的な方法で検討していく必
要があるのではないか。

会 長 各意見を参考にすすめていただきたい。

・権利擁護推進部会（部会長から報告）

委員 A 先日、一宮市でワークショップを行った。意見を言いたい人たちに呼びかけたら、
当事者が集まり、わがまちを暮らしやすくするために何が必要かを話してもらっ

た。それぞれの立場で暮らしやすさは、ばらばらであったことが面白かった。
計画の作成に関係なく、当事者の意見を聞けるような機会があるといい。

会 長 弊社に、家族から経済的虐待を受けた社員がおり行政で対応していただいた。どこまで関与するか難しいが、雇用主として、そういう目は必要だと感じた。

・こども部会（部会長から報告）

委員 B 資料の別紙5-1「関係機関との連携強化に関する取組み」について、困難さはあるか。

委員 D 福祉事業所のことをご存知ではない学校のかたが多い。稲沢市児童発達支援センターを見学し、療育施設を知っていただく機会を設けた。話ができると連携が取りやすくなるが、知らないとつながりにくいと感じた。福祉事業所と、学校や保育とは垣根があるが、つながって支援ができるようにしたい。

委員 B 保育園や未就学の児童は、福祉とつながっていると感じるが、教育はまだまだだと思う。学校が福祉のことをわかっていないということは、双方に言えることかもしれない。

委員 D 学校のこともしっかりと理解する。そのために、こどもを支援しているみながり、関わっていくことが大事だ。

委員 B 情報共有と双方にそういう機会があるだろう。連携の仕組みの充実は、地域の課題だと思うので、整理して取り組んでいただきたい。もうひとつ、PECS について、有効なコミュニケーションツールのひとつだと思うが、まず地域に発信することを目的とすると、児童発達支援センターのなかで実現していくかたちを先行してやっていると、こどもたちがなかなか伝えられないといった場合に、モデルになるので、児童発達支援センターのなかで実践して欲しい。

委員 E 性犯罪を行った人の雇用問題がある。こども部会にも関わることだと思う。

会 長 参考にさせていただく。

(3) 事業所連絡会の実施状況について（事務局から説明）

令和7年度の事業所連絡会の実施状況を、資料を用いて説明
→意見等なし

2 その他

会 長 会議日程表に障害者雇用フォーラムは入るか。

委員 A 日程は未定である。

会 長 誰もが幸せになるために生まれてきたと思うが、幸せになるための方法をいろいろ考えていく場所が自立支援協議会ではないかと思う。求める幸せのかたちは違

うかもしれないが、こんなことがあったらいい、ということのみなで補いあって、支え合って考えていける会であればと思っている。

委員 A 先日、稲沢市社会福祉協議会主催で、伊豆丸剛史氏が境界のない宇宙（しゃかい）へというテーマで勉強会をされた。彼は、5年間の矯正施設退所者地域支援対策官を経て、愛知県に拠点を置いた。刑務所や少年院にいる生きづらさを抱えた障害のある人たちがちゃんと生きられるような社会を作ることが、社会をよりよくすることへの近道である。

これは我々、自立支援協議会が考えていくべき必要な情報だ。単なる障害の問題だけではなく、教育や家庭支援の問題かもしれない。司法とも繋がっていかないと解決できない課題だ。稲沢市で社会化していくとき、協議会という大きなネットワークで行い、考えていくべき話題なので、個別事例を集約し、その中にある課題をみなで考えることが今後必要になると思う。

伊豆丸氏は、「世の中にある常識や自分たちの認識を越えて離れたところから見てみると、見えなかったものが見えるようになってくる。そのために一度フラットになって考えることが必要だ」と話していた。たとえば、宇宙のように人の想像力を越えたところに行くことの例として、少年院に行くなどで想像力を広げていく。協議会という場を使ってでも、この人たちの問題を社会化して支援につなげ、会長がおっしゃったように、皆と幸せに暮らせる社会につなげることについて、ぜひ、こういう場で皆さんと話し合いができるといい。今後、一歩でも二歩でも進めていただけたらと思う。

委員 B 先日の勉強会で、罪を犯してしまった人たちの再発防止、関係性が断絶してしまい、なかなか抜け出せない状況のリアルを聞かせていただいた。そこに至るまでの予防的な視点も必ずいるのではないか。予防的視点も含めて課題であると思う。

委員 A 子育ての課題でもあると思う。家庭環境によって非行に走る子や発達障害の子、だからどうしようという話題を、皆で考え合う機会を作れないか。

委員 B いろいろなことがつながっているのだと思う。

委員 A 多くの人が集まっているので、一歩ずつ進めるようなものをなにか作れないか。

委員 B 役割分担を固め、どう連携していくか具体的な方法も決めていけるといい。

委員 E 法務局ではなかなか福祉に関わることはないが、皆さんが一生懸命に障害者のことを考え、取り組んでいただいているので敬意を表したい。稲沢市はいい取組みをされているので、今後も市として発展していられると思う。

会 長 いろいろな意見が出た。知ることから始め、まずやってみようというのが必要ではないか。みなさんで意見交換しながら進めていけたらいいと思う。

部 長 次年度も引き続き、この協議会でいろいろなことをやっていくが、話題に上がった刑務所や少年院にいる生きづらさを抱えた障害のある人たちの件を含め、今後はどこかで考えていけるといい。すぐに形にすることは難しいが、今後も、稲沢

市地域自立支援協議会がますます機能していきますようご協力をお願いしたい。